

地域の会



▲第80回定例会 (柏崎市産業文化会館)



◀第79回定例会 (柏崎原子力広報センター)

CONTENTS

第79回定例会
委員による原子力発電所の現状を踏まえての
ディスカッションの中で質疑応答2

第80回定例会
情報共有会議として
行政及び東京電力と意見交換3

発電所を巡る主な動き
地域の会に寄せられた声「みんなの広場」4

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（「地域の会」）

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
(2)事業者等への提言
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供
(4)委員の研修
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会(毎月1回)
臨時会(必要に応じ開催)
※会は、原則すべて公開。

第79回定例会

委員による原子力発電所の現状を踏まえてのディスカッションの中で質疑応答

第79回定例会の概要

開催日	平成22年1月13日(水)
場所	柏崎原子力広報センター(研修室)
出席者	18名(欠席5名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 保安検査官事務所(保安院) 地域担当官事務所(エネ庁)、東京電力(株)
内容	●前回定例会以降の動き ●原子力発電所の現状を踏まえてのディスカッション ●質疑応答 他



保安院、新潟県及び東京電力から、前回定例会以降の原子力発電所の動きの説明を受け質疑した。また、委員のディスカッションの中で、質問及び意見・要望が出された。

【質疑応答】

Q 法律で、飲食・喫煙が禁止されている放射線管理区域内で、たばこの吸殻が見つかった件について、どのような対策をとっているのか。

新潟県 作業員の安全や火災防止の観点から、労働基準監督署と連携し対処する。

東京電力 放射性物質の体内への取り込み防止と火災防止のため、作業員同士での持ち物の確認だけでなく、管理区域内に入るときには、担当者による確認も行っている。しっかりと管理していきたい。

Q 新潟工科大にできる原子力耐震・構造研究拠点施設設置の経緯を教えてください。

発注者と下請けのどちらが責任を負うのか。

東京電力 労働災害では工事を請け負う側に法的な責任がある。しかしながら、東京電力は設置者及び事業者としての社会的な責任があり、協力企業と共に再発防止に取り組んでいる。

Q 災害時の避難所の指定はどうなっているのか。

柏崎市 市の指定した避難所は、一般災害は最寄りの公共施設、原子力災害はコンクリート公共施設を待避所としている。また原子力災害では、発電所から10km以上の公共施設へ避難誘導する段階もある。

進める資源エネルギー庁とがある。県の原子力行政の、防災と推進各々の担当部署を教えてください。

情報発信では、正確さとわかりやすさのバランスのとり方が難しい。地震以降の情報の公開の仕方を整理してみたい。

民主党政権のエネルギー政策、原子力政策を知りたい。

県が技術委員会等を拡充したことは英断だったと思う。傍聴させてもらって勉強になった。最近では地元住民との意見交換も行われず、信頼感も低下しているのではないかと。

原子力発電所から出る放射線等の環境に対する評価会議は、物理・化学系だけでなく、生物・医学系の専門家も増員してほしい。

2月の情報共有会議は、柏崎市長、刈羽村長とともにぜひ新潟県知事にも参加していただき、地元住民とのフリーディスカッションの時間が持たれば良いと思う。

災害時に旅行者から道路を聞かれたが説明に困った。災害時の通報・避難のためにも、誰もが自分の位置がわかるよう、住居表示や道路案内標示等の整備を望む。

東京電力は、作業の目的・内容・手順等と安全対策に、安全基準書を作っているのか。安全基準書の説明が明確であれば、様々なトラブルの疑問や不安がある程度解消されると思う。

発電所誘致の問題が出てから30年以上たった。原子力発電所が本当にこの地域を活性化させたのか、総括の必要がある。

資源エネルギー庁は、原子力発電所は温室効果ガスの二酸化炭素を出さないと言っているが、その主張の検証が必要だ。

オフサイトセンターの役割や位置づけ、今後事故が起きた時の働きなど、防災に関わる具体的対策を国から説明してもらえば安全安心につながる。

原子力発電所がある以上、その運転によって発生する放射性廃棄物は地元で処理すべきだと考える。発電所で事故が起きたとき、地元への賠償はどのくらいか教えてください。

しばしば偶発的な事故故障と説明される。偶発的なことが起こると自体をもっと深く検証すべきだ。

発電所見学の際、放射線管理区域内の作業現場では緊張感を感じられたが、区域外の現場では感じられなかった。それが、火災や人身事故の背景ではないか。

2回の地震を体験した当地域の経験を、他の原子力発電所立地地域に発信できるように取りまとめが必要ではないか。

地域の会として、節目ごとに総括のようなものが出されれば、会として立場・役割がはっきりするのではないかと。

柏崎市 中越沖地震を受け、市が地震学や耐震学について、新しい知見等を研究する施設を当地域に造ってほしいと国へ要望してきたもの。

東京電力 この地域に研究拠点ができると踏まえ、当社が得た知見を提供させていただく。一緒に研究させていただき、この事業に参加したい。

Q 古くなった原子力発電所の設備はどのように更新されるのか。



東京電力 ポンプやバルブ、配管など取り替え可能な設備は、取り替えて更新する。原子炉圧力容器など取り替えるが難しいものについては、それらの機器の寿命等を考慮し、検討している。その際には、安全を第一に考えて対応する。

Q 年末の6号機の営業運転前の不具合など、発電所の節目節目に故障や事故が起きることをどう考えているのか。

東京電力 大変恥ずかしく、また大変申し訳ない。徹底した情報公開とわかりやすい説明に努めたい。

発電所構内の労働災害について、

【各委員からの意見・要望】

放射線管理区域内への、たばこの持ち込みは禁止事項。わかっているのに持ち込むという意図的行為は、地域の信頼を損ねることで、許すことではない。厳しく対処してほしい。

東電は、重要な事故故障でないのに報道された問題は、誤解のないように、補足という形できちんと説明してほしい。

国には、原子力事業者を規制する原子力安全・保安院と原子力発電を推

進める資源エネルギー庁とがある。県の原子力行政の、防災と推進各々の担当部署を教えてください。

情報発信では、正確さとわかりやすさのバランスのとり方が難しい。地震以降の情報の公開の仕方を整理してみたい。

民主党政権のエネルギー政策、原子力政策を知りたい。

県が技術委員会等を拡充したことは英断だったと思う。傍聴させてもらって勉強になった。最近では地元住民との意見交換も行われず、信頼感も低下しているのではないかと。

原子力発電所から出る放射線等の環境に対する評価会議は、物理・化学系だけでなく、生物・医学系の専門家も増員してほしい。

2月の情報共有会議は、柏崎市長、刈羽村長とともにぜひ新潟県知事にも参加していただき、地元住民とのフリーディスカッションの時間が持たれば良いと思う。

災害時に旅行者から道路を聞かれたが説明に困った。災害時の通報・避難のためにも、誰もが自分の位置がわかるよう、住居表示や道路案内標示等の整備を望む。

東京電力は、作業の目的・内容・手順等と安全対策に、安全基準書を作っているのか。安全基準書の説明が明確であれば、様々なトラブルの疑問や不安がある程度解消されると思う。

発電所誘致の問題が出てから30年以上たった。原子力発電所が本当にこの地域を活性化させたのか、総括の必要がある。

資源エネルギー庁は、原子力発電所は温室効果ガスの二酸化炭素を出さないと言っているが、その主張の検証が必要だ。

オフサイトセンターの役割や位置づけ、今後事故が起きた時の働きなど、防災に関わる具体的対策を国から説明してもらえば安全安心につながる。

原子力発電所がある以上、その運転によって発生する放射性廃棄物は地元で処理すべきだと考える。発電所で事故が起きたとき、地元への賠償はどのくらいか教えてください。

しばしば偶発的な事故故障と説明される。偶発的なことが起こると自体をもっと深く検証すべきだ。

発電所見学の際、放射線管理区域内の作業現場では緊張感を感じられたが、区域外の現場では感じられなかった。それが、火災や人身事故の背景ではないか。

2回の地震を体験した当地域の経験を、他の原子力発電所立地地域に発信できるように取りまとめが必要ではないか。

地域の会として、節目ごとに総括のようなものが出されれば、会として立場・役割がはっきりするのではないかと。



第80回定例会

情報共有会議として行政及び東京電力と意見交換

第80回定例会の概要

開催日	平成22年2月3日(水)
場所	柏崎市産業文化会館(大ホール)
出席者	21名(欠席2名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 原子力安全・保安院、保安検査官事務所 資源エネルギー庁、地域担当官事務所 東京電力(株)
内容	●前回定例会以降の動き ●委員所感表明 ●オブザーバー所感表明 他



各オブザーバーの代表として、原子力安全・保安院黒木審議官、資源エネルギー庁杉本原子力発電立地対策・広報室長、新潟県飯沼防災局長、会田柏崎市長、品田刈羽村長、高橋柏崎刈羽原子力発電所長が出席し、全委員が所感・要望を述べ、各代表が意見・感想を述べた。

【各委員の所感・要望】

- 柏崎刈羽原子力発電所の事故が絶対ないとは言えない。地域の自主防災会とで、原発事故の対応を考えなければならぬ。
- 地球温暖化対策として原子力発電が注目されているが、政府が公表した温室効果ガス排出量算定報告(2009年4月)によると、二酸化炭素削減の効果は疑問。
- 国は、柏崎刈羽原子力発電所の運転再開を前提に安全性を立証し、県は住民の安全を考え慎重に対応してきたように思う。しかし、県技術委員会の結

論に至るまでの過程については、改めて説明してもらいたい。

- 震災後の柏崎刈羽原子力発電所の運転再開の判断は慎重であるべきだ。
- 東京電力の不祥事発覚当時、その安全管理体制に愕然としたが、現在は不透明な部分は払拭された。二度の地震でも柏崎刈羽原子力発電所の安全性は確保されたと思っている。
- 発電所構内の作業現場で、以前は、東京電力と協力企業との間に温度差を感じていた。現在は一丸となつてやり遂げるという意気込みを感じる。
- 運転再開した6・7号機には安全で安定した運転を求める。停止している他の号機には安全を優先にしっかり設備を点検・復旧し、復興させてもらいたい。
- 電気は私たちの暮らしに不可欠。原子力発電に頼らざるを得ない現実があると思う。
- 電気は私たちの暮らしに不可欠。原子力発電に頼らざるを得ない現実があると思う。

● 電気は私たちの暮らしに不可欠。原子力発電に頼らざるを得ない現実があると思う。

- 日本の原子力発電技術は世界に誇れるものだ。全号機が一日も早く安全に運転再開され、災害に強い大切な地元の企業として地域に貢献・共生することを望む。

- 6・7号機の運転は再開されたが、地震の影響がすべて解決・原因究明されたとは思えない。また、例えささいなことでも運転再開を急ぐためと思われる事故や火災の頻発が、住民の不安につながっている。行政はより一層住民の安全安心を考えてほしい。
- 発電所との共生の観点から地元で原子力関連の企業が育成される必要があると思うので、国や県、市、村に指導してもらいたい。また東京電力の協力もいただきたい。

- 柏崎刈羽原子力発電所は中越沖地震の際も、「止める・冷やす・閉じ込める」機能が働き、大丈夫だった。今後も安全を大前提に、どのようにして住民に理解を求め、共生していくか、真剣に考えなければならない。

- 中越沖地震の柏崎刈羽原子力発電所への影響の不安は、県・東京電力の説明によつて不安はかなり払拭されたように思う。

- 中越沖地震後、正確な情報不足のため県内の他地域から、風評被害を煽るような質問を受け愕然とした。原子力発電所の正しい情報を発信し、共有することが理解を深める。一方的な発信ではなく、国、自治体、東京電力がそれぞれの立場で情報を提供し、人々の関心を深めてもらいたい。

- 電火力発電の燃料となる石油・石炭は、燃料以外の用途でも生活の基盤だ。それらを節約するという面からも原子力発電は「良い悪い」ではなく、「要

- 必要」という観点で捉えるべきである。
- 発電所構内での事故について、協力企業から地域の会で説明してもらい、市民の意見に触れてもらうことも大事なのではないかと。

- 柏崎刈羽地域は原子力発電所に不適な場所だったのでないか。地震後も建屋の隆起や沈降が続いているが審査がない。東京電力説明以外の事項を地元自治体で審査してほしい。

- 今後の地域の会の重要課題として、プルサーマルや地質・設備健全性などの難しい内容について、どのように審議して地元住民にわかりやすく発信していくかが問われてくると思う。



【各委員の所感や質問に対する所感表明】

● 県知事の運転再開同意前に柏崎市長と刈羽村長が同意の意向を示したのは拙速ではないか。

● 柏崎市・会田市長 拙速とは思っていない。東京電力の作業を国がチェックし、さらに県の技術委員会でも安全性の確認がされればそれ以上判断を先送りにはできない。安全を大前提とし、安全が確認され

た号機から運転再開を認めていくことで、適正な対応と判断をしていきたい。

● 刈羽村・品田村長 科学的な根拠に基づいた判断を政治がゆがめてはいけない。村は国や県の科学的な判断に従う。

● 原子力防災計画の見直しだが、中越沖地震後の議論や経験が十分生かされているのか。

● 県・飯沼局長 住民の意見を踏まえ、具体的な計画の作成や防災訓練の実施が必要と考えている。早急により良いものにするため、ご協力をお願いしたい。

● 柏崎市・会田市長 原子力防災計画は、作成すれば終わりではなく、多面的で実のあるものにしていかねばならない。また、その内容を市民へさらに周知していくことが必要と考えている。

● 中越沖地震の際、原子力災害が起きたかのような報道がされ残念。保安院・黒木審議官 規制当局として、情報をできるだけ早く、一般の人にもわかりやすく伝わるよう努めたい。

● 東京電力・高橋所長 大きな反省点は情報発信が遅れ、十分でなかったこと。地震後、新たに免震重要棟を建設し、緊急時対策室等の重要設備を設け、運用を開始している。

● 国策としての原子力発電所を米軍基地と同様に厄介者と見る傾向がある。今後更に国のトップが住民に誠心誠意説明をするべきではないか。

● 工ネ庁・杉本室長 昨年末に閣議決定された新成長戦略の基本方針の中でも「安全を第一として、国民の理解と信頼を得ながら、原子力利用について着実に取り組む」と明記されており、新政権の下でも引き続き広聴・広報活動に力を入れて行きたい。

発電所を巡る主な動き (12月3日~2月3日)

- 12月3日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適合について公表
- 4日 3号機タービン建屋天井クレーンにおける火災に係る原因と対策に関する報告書に基づく不適合水平展開実施状況の調査結果(中間報告)について公表
- 7日 保安院 東京電力から、柏崎刈羽原子力発電所における放射性廃棄物処理系配管の誤接続について、全号機に関する調査結果を受領
- 保安院 設備健全性評価サブWG開催
- 柏崎刈羽原子力発電所の放射性廃棄物処理系配管における誤接続の有無を確認するための調査結果に関する経済産業省原子力安全・保安院ならびに新潟県の報告について公表
- 8日 保安院 耐震・構造設計小委員会(合同WG)開催
- 新潟県 技術委員会開催
- 10日 保安院 内閣府原子力安全委員会に、平成21年度第2四半期の使用前検査及び溶接安全管理審査の結果を報告
- 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適合について公表
- 16日 新潟県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく月例状況確認
- 17日 保安院 内閣府原子力安全委員会に、原子力施設の平成21年度上期の放射線管理等の状況について報告
- 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適合について公表
- 18日 保安院 耐震・構造設計小委員会(合同WG)開催
- 新潟県 県庁において、下越地区県民説明会を開催
- 19日 新潟県 上越市高陽荘において、上越地区県民説明会を開催
- 20日 新潟県 刈羽村ラビ力において、中越地区県民説明会を開催
- 21日 新潟県 技術委員会(設備健全性、耐震安全性に関する小委員会)開催
- 新潟県、柏崎市、刈羽村 6号機及び7号機の営業運転への移行を了承
- 22日 1号機に関する新潟県中越沖地震後の設備健全性に係る点検・評価報告書(建物・構築物編)の経済産業省原子力安全・保安院への提出について公表
- 新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長からの6号機および7号機の営業運転への移行に関する文書の受領について公表
- 保安院 東京電力から、定期検査中の6号機で1本の制御棒の位置を表す装置の不具合発生時の連絡を受け、総合負荷性能検査の実施を延期
- 新潟県 東京電力から、6号機の総合負荷性能検査受けを延期する報告を受領
- 6号機における制御棒位置表示に関する警報の発生について公表
- 24日 保安院 耐震・構造設計小委員会(構造WG・合同WG)開催
- 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適合について公表
- 25日 6号機の計画停止について公表
- 26日 新潟県 東京電力から、6号機の原子炉停止の報告を受領
- 28日 保安院 東京電力に対し、7号機の定期検査終了証を交付
- 新潟県 東京電力から、7号機が営業運転を再開したとの連絡を受領
- 新潟県中越沖地震後の7号機の営業運転再開について公表
- 1月6日 6号機における制御棒位置表示機能の不具合に関する調査結果について公表
- 7日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適合について公表
- 8日 保安院 東京電力から提出された3号機タービン建屋の天井クレーンの火災についての報告書に基づく不適合管理状況調査を確認した結果、運転上の問題は無いと評価
- 6号機の発電開始について公表
- 3号機タービン建屋天井クレーンにおける火災に係る原因と対策に関する報告書に基づく不適合水平展開実施状況の調査結果(最終報告)について公表
- 12日 保安院 耐震・構造設計小委員会(構造WG)開催
- 13日 新潟県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく月例状況確認
- 14日 新潟県 技術委員会(設備健全性、耐震安全性に関する小委員会)開催
- 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適合について公表
- 15日 保安院 東京電力から、6号機の特別な保安計画を受領
- 保安院 東京電力に対し、6号機の定期検査終了証を交付
- 19日 新潟県 東京電力から、6号機が営業運転を再開したとの連絡を受領
- 新潟県中越沖地震後の6号機の営業運転再開について公表
- 2号機タービン建屋における人が人の発生について公表
- 1号機タービン建屋における人が人の発生について公表
- 21日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適合について公表
- 22日 保安院 東京電力に対し、1号機の建物・構築物の健全性について評価結果を通知するとともに、内閣府原子力安全委員会に報告
- 保安院 東京電力に対し、柏崎刈羽原子力発電所に係る保安規定の変更を認可
- 25日 新潟県 技術委員会(設備健全性、耐震安全性に関する小委員会)開催
- 新潟県 5号機使用済燃料プール(管理区域)における異物の発見について公表
- 4号機電力ケーブル河道換気空調機室における人が人の発生について公表
- 6号機原子炉自動スクラム論理回路の故障について公表
- 28日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況および不適合について公表
- 29日 保安院 設備健全性評価サブWGを開催し、1号機及び5号機の現地調査を実施
- 耐震・構造設計小委員会(合同WG)開催
- 保安院 東京電力から、配管の誤接続について、原子力発電所の調査結果を受領
- 東京電力に対し、嚴重注意するとともに、当該不適合について根本的な原因の究明の結果及び再発防止対策を報告するよう指示
- 原子力発電所における放射性廃棄物処理系配管の誤接続に関する最終報告書の経済産業省原子力安全・保安院への提出について公表
- 原子力発電所における放射性廃棄物処理系排水の誤接続に関する指示文書の受領について公表
- 1号機、5号機に関する新潟県中越沖地震後の設備健全性に係る点検・評価計画書(改訂版)の経済産業省原子力安全・保安院への提出について公表
- 3日 保安院 設備健全性評価サブWG開催
- ※号機のみ記載は柏崎刈羽原子力発電所分
- 色は東京電力の動き ■色は行政の動き

地域の会に寄せられた声 みんなの広場



地球温暖化と原発

柏崎市 市村 真介さん

今年降り続いた雪は、エルニーニョのなせる業とのことで、昔は当たり前だったが、今は地球温暖化の影響だとされています。

近年、季節の移り変わりにも何やら荒々しさが増してきたように感じられますが、気象現象だけではなく、動植物の生態系などにも温暖化の影響が現れてきているようです。

既に後戻りできない段階にきているのではないかとありますが、孫子のためにも、これ以上温暖化を進行させてはならない、と強く決意し、願っているところでもあります。

その観点から、CO²を排出しない原子力発電は、その担うところが大きいと思いますが、人知の及ばぬ危険性のあることも忘れてはならないところと思っています。

柏崎刈羽原発は、建設時に寿命40年とされていましたが、運転開始して25年、経年劣化も気になるところです。加えて大地震に二度も遭遇していることを思えば、その安全性について、想定外が無いようにと願っているところです。

今は、既に原子力に頼るべきではなく、自然エネルギーへの転換を図るべき時かも知れません。

しかし、電気の供給確保を優先しなければならない現実立って、火力発電への依存度を最小限に止めることも重要な課題です。

現時点では、その課題を早期に実現させるため、今の発電施設を正常化させることが最善であると思います。

そして時が移ったその時こそ、この広大な敷地は、地域のために最適な「自然エネルギー基地」になるのではないかと考えています。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。
宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。



放射能漏れはあってはならない

柏崎市 宇佐美 彰敏さん

想定外の大震災で被災した柏崎刈羽原子力発電所で、排気筒から放射性物質が大気中に出た。また使用済核燃料プールの水があふれ、放射性物質を含んだまま海へ流れ出た。

昨年7号機の試運転中に、放射能漏れや燃料棒から放射性物質の漏れが発生した。

放射能は怖いものという認識が一般的であり、たとえ微量でも不安に思う。健康への影響はないと説明されても、不安感はなくならない。放射性物質を含んだ水が海へ流れ出たことが明らかになったことから、ホテルや旅館のキャンセルが相次いだ風評被害もここに起因する。

安全の確保を大前提とする原発で、多くの不安があるが、放射性物質を大気中や海へ放出しないことが、安全性を感じる事ができることだと思う。

燃料漏れについて、運転を停止し燃料交換したことは大変良かったと思う。

地震による大きな揺れで、池の水や風呂のお湯があふれることは容易に想像できることだ。運転中の原発が一斉に停止した場合、いろいろなことが想定できる。マニュアルだけにとらわれず、想像力も生かし安全の確保に努めてもらいたい。

放射能漏れはあってはならないことだ。

副会長交代のお知らせ
佐藤正幸氏が故渡辺丈夫副会長の後任として2月3日付で新副会長に選任されました。

■今後の「地域の会」定例会の開催案内■

第83回定例会
日時：平成22年5月12日(水)午後7:00~
場所：柏崎原子力広報センター(研修室)

第84回定例会
日時：平成22年6月2日(水)午後7:00~
場所：柏崎原子力広報センター(研修室)

※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

会は公開で行われています。傍聴はお気軽にお越し下さい。

地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。

ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。

また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>

中越沖地震から二年半、東京電力柏崎刈羽原子力発電所では、6号機、7号機が運転が再開、免震構造の緊急時対策室も完成し、ようやく地震からの復興が見えてきた感じがします。

想定外の大震災については、いろいろな議論がありますが、その中で原子力災害を起こさず、より地震に強い形で再稼働できたことに、私は安堵感があります。

原子力発電所は、どんなことがあっても、外に影響を与えないような放射能を出さない。「止める・冷やす・閉じ込める」が、きちんと出来ること、一番重要であります。中越沖地震は不幸ではありましたが、耐震補強により、「より災害に強い発電所」が出来つつあり、災害時の情報公開についても東京電力からだけでなく、国、県、市、村それぞれで色々議論がなされ、改善がなされていっていると思います。

知らないという情報は、不安に繋がります。普段から、どういった形でどのよう正確な情報を伝えるかを研究して欲しいと思います。

(運営委員 川口)